

ENGAWA



川名のひよんどり

■表紙の言葉

あちちちっ！！そんな声が聞こえてきそうなこの写真は、豊作を祈願する祭礼「川名のひよんどり」の一コマ。毎年1月4日に北区引佐町川名の薬師堂で行われています。

松明（たいまつ）を献上するタイトボシが薬師堂に入るのを阻止しようと、川で褌（みそぎ）をした6人の青年が立ち塞がります。この迫力のある姿から「火踊りの若衆」と呼ばれ、今日ではそれがなまって「ひよんどり」と呼ばれるようになりました。

近年、後継者不足により存続が危ぶまれています。しかし、今まで参加を許されなかった、女性や他地域の方も加わることで、伝統が受け継がれています。

■目次

《特集》

地域を元気にする大学生のチカラ

- ①北遠密着型サークル LA-VoC
- ②NPO 法人サステナブルネット
- ③常葉大学浜松キャンパス

《Check》

NPO 法人のためのマイナンバー講座！

《お知らせ》

市民協働データベース掲載団体募集中

特集 地域を元気にする大学生のチカラ



近年、NPOや企業、行政など、地域の諸団体と大学が協働し、地域課題や新たな事業に取り組む事例が増えています。大きな組織間の話だけではなく、大学の研究室や学生サークルなど、より身近なところでも大学と地域の連携は進んでいます。

今回は、市内の大学と地域の諸団体との3つの協働事例を通し、大学の特性や学生のチカラがどのように活かされているかをお伝えします！

CASE
01

北遠密着型サークル『LA-VoC(ラボック)』

中山間地域で芽生えた大学生との連携

過疎化・高齢化などが進む浜松市の山里では今、大学生のチカラが活躍しています。主体となっているのは、静岡文化芸術大学の学生サークル『LA-VoC(ラボック)』です。メンバーは現在約30名。中山間地域振興を目的に、主に天竜区で農業支援やイベントの手伝い、地場産品のパッケージデザインなど、大学で学んだ知識や経験を活かした地域密着型の活動を展開しています。

活動のきっかけは、同大学で農村社会学などを教える船戸准教授とゼミ生の元へ、天竜区で地域活性化に取り組む方から「学生と連携したい」と提案があったことでした。「一度きりでなく、信頼のある関係を築



いていきたい」という学生たちの思いのもと、2013年5月にサークルが発足しました。

「実践の場」が生む成長と元気！

活動の一つとして、ラボックは天竜区熊地区で製茶業を営む丸芝製茶協同組合と協働し、商品パッケージやリーフレットのデザインを行っています。この活動に携わっているデザイン学部3年の山下さんは、「ここまで地域に訪問しているサークルはなかなか無いと思う」と語ります。その言葉通り、現地には毎月1回以上足を運び、丸芝製茶の職員と共にデザインの試行錯誤を繰り返しています。地域との二人三脚でプロジェクトは進行しており、2016年春頃から、実際の商品にデザインが使用される予定です。

責任感を持ち、徹底的に通うことで信頼関係を築いてきたラボック。今では地域の人々から「祭りに参加してみない？」「ここに行ってみない？」などの声を掛

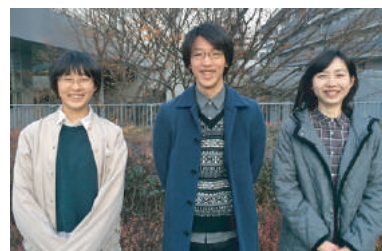
けてもらうことが増えてきたといいます。実践活動を通して若い人材が育つと同時に、その土地に住む人々の元気にもつながっているようです。



第二の故郷のために

学生たちの心には、地域への愛着も育まれています。今年の春に卒業する文化政策学部4年の石倉さんは、「第二の故郷という意識が生まれた。地元でも同じような活動をして、その経験を仕事にも活かしたい」と話します。また、山下さんは、「みんなでデザインをしていくのがすごく楽しかった。将来は熊のような地域で技術を活かしたら本当に幸せ」と笑顔で話しました。農業支援などに積極的に関わっている文化政策学部1年の工藤さんも、「将来は教員になり、農村の学校に行きたい」という抱負を語るなど、学生たちは共通して中山間地域への熱い思いを秘めている様子でした。

大学と地域の協働は、学生の成長だけでなく、将来の地域の担い手の創出へと着実につながっています。地域に愛着を持ち、仕事として関わったり、卒業後も何度も訪れたいと思う人々の存在が、人口流出に悩む中山間地域を支える大きな力となっていくことが期待されます。



山下さん(左) 石倉さん(中央) 工藤さん(右)



“山に自分たちの拠点をつくる”という思いを込めたロゴの通り、地域に密着した活動が展開されている。日々の活動はFacebookにて公開中！

北遠密着型サークル ラボック 検索

CASE
02

NPO法人 サステナブルネット

NPOと大学生ボランティア

浜松市を中心に、緑化活動やひとり親家庭の支援に取り組んでいるNPO法人サステナブルネット(以下、「サステナブルネット」)。2015年4月からは、静岡県母子寡婦福祉連合会より委託を受け、ひとり親家庭の小中学生に対する無料学習支援の運営の一部を担っています。

学習会で子どもたちに勉強を教えているのは、教職経験者と大学生ボランティア、約45名です。教員を目指しているという静岡文化芸術大学4年の田中さんは、「ひとり親家庭や貧困家庭の子たちとどのように接すればいいかは、塾や家庭教師などのアルバイトでは学べない。このような場は貴重な機会になっている」と、学習支援ボランティアに参加する意義について話します。さまざまな家庭環境や経済状況の子どもたちがやって来る学習会。学生たちは、そんな多様な子どもたちと接することができるボランティア活動に、大きな価値を感じているようです。



大学生のボランティア事情

静岡大学工学部4年生の小柳津(おやいづ)さんは、サステナブルネットのホームページを見て学習支援ボランティアに参加しました。「自分のようにボランティアをやりたい学生もいると思いますが、インターネットで情報を探してもほとんど見つからない。今どきの大学生はウェブをかなり活用しているので、ホームページなどでもっと情報を公開してくれるとありがたい」と、現

状を訴えます。

自身の知識や経験を社会に活かしたいと考える学生はいるものの、情報が見つからないために参加の機会を逃している場合も多々あるようです。ホームページやブログ、twitter、Facebookなど、情報発信の手段は以前よりずっと多く、簡単になっています。インターネットを積極的に活用し、一つ一つの団体が情報発信力を付けていくことが、若い人材を巻き込むきっかけとなるかもしれません。

現場を知るNPOだからこそその強み

学習支援の取り組みについて、理事長の渡邊さんは、「一人の人として子どもたちに何ができるか」を、ボランティアの方には意識してもらいたい。勉強以外の部分でも力になってあげてほしい」と話します。自身もひとり親として子育て

NPO法人サステナブルネット
理事長 渡邊修一さん

を経験してきた渡邊さん。だからこそ、一人ひとりと向き合って何気ない日常会話をしたり、子どもたちのささやかな成長に気付き、互いに喜び合える関係づくりを大切にしています。今後は、学力向上はもちろん、貧困に苦しむ子どもたちをさらに支援していけるよう、ボランティアの力も借りながらできる限りのことをしていきたいと語ります。

子どもたちとじっくり向かい合えるのも、現場の状況に合わせてスピーディーに対応していけるのも、NPOだからこそその強みです。多様な出会いを通じた成長や、現場で学ぶ実践の場として、NPOの活動は大学や大学生からの注目が高まっています。

NPO法人サステナブルネット ホームページ
<http://green-father.sakura.ne.jp/>

CASE
03

常葉大学 浜松キャンパス

大学を飛び出し、地域の中へ！

教育理念に「知徳兼備」「未来志向」「地域貢献」を掲げる常葉大学は、取り組みの一環として、近隣地域との交流と連携を推進しています。その一つが、2014年9月から浜松市立都田小学校と協働して実施している、大学生による児童の下校見守り活動『こどもの笑顔をまもろーる(以下、「まもろーる」)』です。

活動に参加しているのは、同大学浜松キャンパスで社会貢献学などを教える木村准教授のゼミ生と、ボランティアサークル『ThunderBirds(サンダーバード)』の学生約20名です。2015年10月には、都田小学校の児童と共に学区内を歩き、交通事故多発区域や不審者情報、子ども110番の家などを地図に記載。『都田安心・安全マップ』を作成して都田小学校区全戸に配布するなど、安心安全な地域づくりに貢献しています。



教育現場とボランティア

大学生による地域でのボランティア活動について、木村准教授は、「“アクティブ・ラーニング”の視点から、基礎知識を学ぶだけでなく、実践的に学ぶことが大事」と指摘します。“アクティブ・ラーニング”とは、教師による講義形式の授業ではなく、学生が主体的に問題を発見して答えや解決策を見出す教育方法で、大学教育の中で盛んに行われています。

『まもろーる』をはじめとする実践活動は、教職を志す学生にとって、教育実習とは異なる現場で普段の児

童の様子を知る貴重な時間となっています。また、将来の夢が定まっていない学生にとっては、小学校や自治会、行政などのさまざまな人と関わることで、より具体的な将来像を持つきっかけとなっています。実際、防犯や防災のボランティア活動を通して、警察官や学校の教員になった学生もいます。

このように、学生の成長だけでなく、職業意識を形成する場としても、ボランティア活動に対する期待が高まっています。



木村佐枝子准教授

地域との協働を求めている

常葉大学浜松キャンパスでは現在、地域との連携を目的としたプロジェクトを複数実施しています。木村准教授は、「地域あつての大学。プロジェクトをきっかけに人々がつながって、地域で何かあれば協力し合える関係ができると、お互いにとってプラスになるのでは」と話します。

地域の人にとって「大学は敷居が高い」と感じている人もいます。しかし、常葉大学のように、教育・研究を活かした地域貢献を推進し、地域に必要とされる人材づくりを実践している大学も存在します。地域への開放、交流を求めている大学と積極的につながりをつくり、若い人材を巻き込むことは、人材不足の課題を抱えるNPOにとっても魅力的です。大学は、社会貢献活動を通じた学生の人材育成や教育的な側面に注目しています。大学とNPOの連携・協働により、双方のさらなる発展が期待できるのではないのでしょうか。

常葉大学が取り組む地域連携事業や社会貢献活動については、大学ホームページで公開しています。

常葉大学 研究・社会貢献 検索



N P O 法人のための

マイナンバー講座を開催しました！

本講座では、法人の会計や税務に関して、税理士法人カイトの伊藤篤史先生に解説していただきました。講座で紹介した、制度の概要と実務上の対応策のポイントについてお伝えします。



講師：伊藤篤史氏
税理士法人カイト
代表社員税理士

開始までに決めること！

① 担当者の明確化

＊誰が責任者で、誰が確認したかを明確にさせるため、マイナンバーを取り扱う担当者を決めましょう

② マイナンバーの受け取り方

＊従業員、講師に利用目的を伝えましょう（「源泉徴収票作成の事務のため」「健康保険・厚生年金手続事務のため」等）
＊マイナンバーを取得する際は、他人のなりすまし等を防止するため、本人確認を行いましょう

③ マイナンバーの管理・保管方法

＊マイナンバーが記載された書類は鍵がかかる棚や引き出しに保管しましょう
＊PCで管理する際はセキュリティ対策をしましょう
＊不必要になったら、確実に破棄しましょう
＊年度ごとに破棄や削除を前提に「保管体制」を徹底しましょう

④ 従業員への周知・教育

＊従業員にマイナンバー制度、周知のための研修や勉強会を行いましょう



マイナンバー実務対応Q&A



ボランティアや講師にもマイナンバーは聞かなければいけないのですか？

報酬や謝礼が1人に対して、年間5万円を超える場合は、「報酬、料金、契約金及び賞金の支払調書」を作成する必要がありますので、マイナンバーを確認する必要があります。



マイナンバーを提出してくれない場合はどうすればいいですか？

拒否された場合は、無理に聞く必要はありません。報酬を支払った人に対して、どんな手段（書面やメール）でいつ（何月何日）提出を促したか履歴を残し、その後は書類の提出先機関の指示に従ってください。



「通知カード」と「個人番号カード」の違いは？

＜通知カード＞



表面：
マイナンバーと基本4情報（氏名、住所、生年月日、性別）を記載、顔写真なし

顔写真がついていないため、単体では本人確認書類として利用できません。

＜個人番号カード＞



表面：
基本4情報を記載、顔写真付
裏面：マイナンバーを記載
ICチップ：
基本4情報、マイナンバー搭載

本人確認の際の公的証明書として利用できます。



個人番号カードを本人確認（公的証明書）として使用する時の注意事項はありますか？

個人番号カードを本人確認（公的証明書）として使用することはできます。
ただし、法律で認められた手続き以外の目的での利用は禁止されています。



マイナンバーを提供・利用できるのはどんな場合？

- 雇用保険関係だと…
雇用保険被保険者資格取得（喪失）届 等
- 健康保険・厚生年金関係だと…
健康保険被保険者資格取得（喪失）届 等
- 税関係だと…
源泉徴収票、給与支払報告書 等
- 社員番号や顧客管理番号としての利用は、仮に社員や顧客の同意があってもできません。
- マイナンバーは左記のように、法律で認められている場合以外で、コピー、書き写しは禁止されています。スタッフに周知徹底しましょう。

マイナンバー制度に関する問合せ先！

今回紹介したのは、マイナンバー制度のほんの一部です。今後マイナンバーを利用する中で、お困りのことや詳しく知りたい部分がありましたら、下記の内閣官房の専用ホームページ、相談窓口をご利用ください。

マイナンバー総合フリーダイヤル（全般について）
0120-95-0178（無料）
平日9:30～17:30（土日祝・年末年始除く）
※一部IP電話等で上記ダイヤルに繋がらない場合は、050-3816-9405にお掛けください。

内閣ホームページ「マイナンバー」で 検索

<http://www.soumu.go.jp/>





市民協働センター データベースに登録しよう！

市民協働センターには、新聞社や行政機関、そして企業などから、問い合わせがあります。たとえば、『子育て支援の活動をしている団体はありませんか？』とか、『今も、被災地支援をしている団体はありませんか？』など。これはほんの一例。

市民協働センターでも、市内のすべて団体の活動内容を把握するのは、困難なことです。そこで、市民協働センターのホームページ内に、団体の情報を掲載するサイトを設けました。

まだ、登録がお済みでない団体は、お気軽にお申し込みください。あなたの団体が、協働相手を探すときにも、役に立つかもしれません。

こんな団体
ないかな～？

どこかと
協働したいな～？



市民協働センターのホームページに団体の情報を掲載！
「つながりたい」という思いを後押しします。

【掲載対象団体】

- 市民活動団体や企業等で、社会貢献性を持つ活動を行うことを主な目的として、協働や連携を希望する団体。
- 継続性を持つ団体。

※ 宗教に関する活動、政治活動、選挙活動を主な活動としている団体は掲載できません。

**掲載ご希望の場合、電話、メール、FAX、センター窓口にて
お気軽にお問い合わせください。**

浜松市市民協働センター

☎430-0929 浜松市中区中央一丁目13-3

☎053-457-2616 FAX053-457-2617

🏠 URL <http://www.machien-hamamatsu.jp/>

✉ E-mail kyoudou@machien-hamamatsu.jp